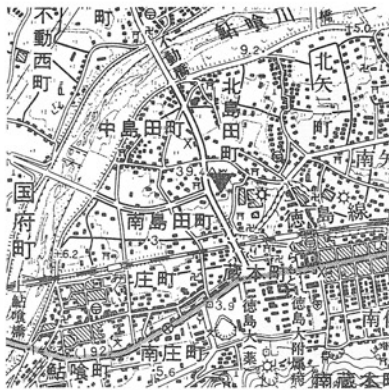


徳島・中島田遺跡

なかしまだ

- 1 所在地 徳島市中島田町
- 2 調査期間 第四次調査 一九九二年(平4)七月～二月
- 3 発掘機関 徳島県教育委員会
- 4 調査担当者 山下知之
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 一三世紀～一六世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(徳島)

中島田遺跡は、徳島市西部を北東に流れる鮎喰川の下流域右岸に位置し、同川ならびに吉野川によって形成された沖積地に立地する

中世の集落跡である。

本遺跡は、一九八六年に県道改良工事に伴ってその所在が確認され、以来継続的に調査が行なわれている。今回の調査では、掘立柱建物をはじめ、土坑、溝・溝状遺構がみられ、以前から調査されている一三～一

四世紀頃の集落の広がり確認された。四次にわたるこれまでの調査結果から、集落の規模は、東西三〇〇m以上に及ぶものと推定される(南北の範囲は不明)。また、上層において、一五～一六世紀代の溝・石組井戸も検出されている。

出土遺物は、杯・碗・鍋などの土師質土器を中心に、瓦器、国内産陶器(備前・常滑・瀬戸・魚住)、輸入陶磁器などがみられ、その大半が一三世紀後半～一四世紀前半のもので占められる。さらに、集落内を区画していた比較的大きな溝から、多量の木製品が出土している。主なものは、漆塗碗、曲物、ヘラ、将棋の駒(歩兵)、呪符木簡、形代(刀形)、串状木製品、板塔婆などである。

8 木簡の积文・内容

〔呪力〕

□

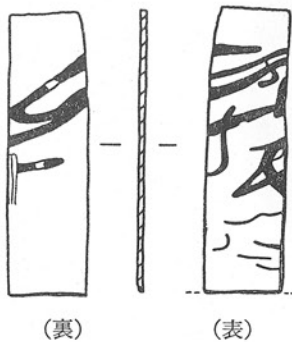
□

上部ならびに左右縁部欠損のため原形は不明。表の文字は判然としないが、「屍」と推定される。

9 関係文献

徳島県教育委員会『中島田遺跡・南島田遺跡』(一九八九年)

(山下知之)



(裏)

(表)